

この紙のゴール: 混合仮定法で「歴史のもしも」を論じ、反論を想定した100語エッセイが書ける

論題 ミニディベート 思考・判断・表現

If smartphones had never been invented, high school students today would be happier.

「事実と違う過去」を仮定して「現在」を論じる—混合仮定法 (If + had 過去分詞, ... would 動詞の原形 ... today) が主戦場。歴史のもしもは、事実を知ったうえで別の世界線を論理的に組み立てる思考実験。根拠の事実 (スマホで失ったもの・得たもの) は日本語で考えてよいが、主張は必ず型で言う。型③のように、譲歩 (Even if ... were ...) で一歩ゆずったあと、事実として言い切る部分は現在形のままでよい—ぜんぶを would にしないでよい。

型 この3つの型で戦う

立論 (混合仮定法)

If smartphones had never been invented, we would not lose sleep over social media today. ~が発明されていなかったら、今ごろ...していないだろう

反駁

That may be true, but we would also have lost touch with friends who moved far away. そうかもしれない。でも、...も失っていたはずだ

譲歩からの切り返し

Even if that were true, the problem is how we use them, not the phones themselves. かりにそうだととしても、問題は~であって~ではない

準備 自分の立場 (賛成・反対に○) と、立論メモ (英語2文+根拠1文)

立場: ☐ Agree ☐ Disagree

進行 ペア対戦 (時計係はとなりのペア)

1分	賛成側の立論 (型を使って2文以上+根拠1つ)
1分	反対側の立論 (同上)
30秒×2	反駁—相手の立論の中身に That may be true, but ... で触れる (用意した原稿の読み上げは反駁にならない)
30秒	まとめ (双方1文ずつ。新しい論点は出さない)

判定は聞いていた隣のペアが2点だけで—①仮定法の形が正しく使えていたか ②反駁が相手の立論の中身に触れていたか。勝敗より「型が実戦で使えたか」を見る。終わったら論題の賛否を入れ替えてもう1試合。

書く

思考·判断·表现

構成の型: 主張 → 理由 → 具体 (自分の経験) → 反論想定 (Some may say ..., but ...) → 結論。90~110語

評価

先生はここを見ます (加点式)

仮定法（混合仮定法を含む）を2文以上、正しい形で運用している	+3点
反論想定（Some may say ..., but ...）が入っている	+3点
具体が自分の経験になっている（一般論で終わらない）	+2点
90語以上	+2点

相互添削

ペアで交換して、この順に3つだけ

1. 仮定法の動詞の形だけを全部チェックする（内容はまだ読まない—形と中身を分けて見るのが添削の技術）
2. いちばん強いI文に下線を引いて返す
3. 反論想定はあるか—なければ Some may say ... のI文を具体的に提案する